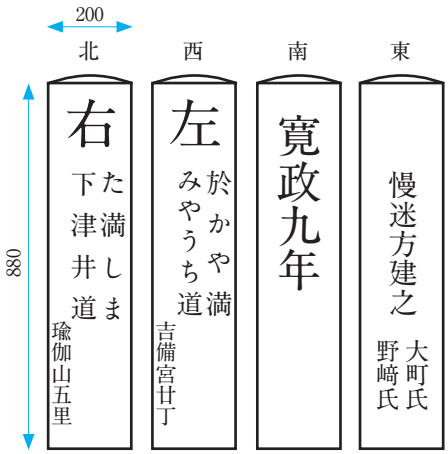
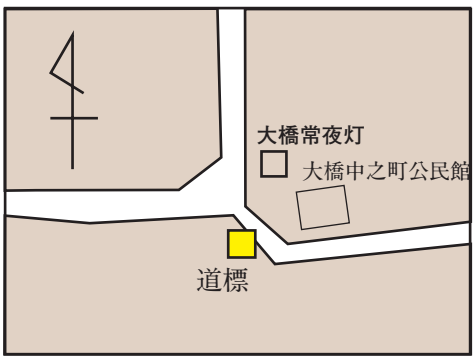
60 大橋道標

撫川 213（大橋中之町公民館前）

この道標は、撫川領主四代戸川達邦の時代である。書体は草字にして優雅な筆法である。慢迷方とは「行く道の方角に惑い迷っているものに」と解すべきか。交通の発達していない旧幕時代に幾千人、幾万人の旅行者が、この道しるべの恵を受けて東西に往来したことであろう。篤志家の大町、野﨑両氏が如何なる経歴の人か知る由がない。

きびのさと No.47 より